

「WT1 ペプチドを用いたガンの免疫療法の臨床試験 WT1 peptide-based cancer immunotherapy」

大阪大学では、癌ワクチン療法学科を主体とし、悪性固形腫瘍（白血病に限らず、肺癌、乳癌、骨軟部腫瘍、脳腫瘍など）に対して、臨床試験を行っております。悪性腫瘍（癌細胞）に特異的に発現しているとされる WT1 蛋白を標的とする特異的免疫療法です。脳神経外科では悪性脳腫瘍に対する第二相試験を行っております。

実際の治療行為は、毎週の皮下注射（12 週 / 3 ヶ月）であり、副作用は注射部位の発赤以外いまのところ出現しておりません。治療効果は、腫瘍の増殖をある程度制御できるのではないかと期待が持たれています。

現在の水準での標準的治療を行ったが再発した症例、外来通院可能なレベルであり、16-80 歳のかた、としています。WT1 の発現程度を最近の手術摘出標本でしらべること、採血で HLA タイピングが適合すること、が必要となります。

もともと血液内科・白血病での研究であり、詳細は、下記に示されています。

<http://sahswww.med.osaka-u.ac.jp/~hmtonc/index.html>

脳外科での対象疾患は、下記としています。

悪性神経膠腫（悪性グリオーマ）

（膠芽腫、退形成性星細胞腫、退形成性上衣腫、退形成性乏突起膠腫、退形成性乏突起星細胞腫）

中枢神経原発悪性リンパ腫

髄芽腫・PNET

実際には

選択基準に合う必要がありますので丸野、泉本、橋本、鈴木の外来を受診して下さい。

癌免疫療法外来にも回って貰う必要があります。

病状などの詳細をお尋ねし適応を検討しつつ、採血をして、こちらで HLA 型を調べます。

また最近の手術標本を用いて免疫染色で腫瘍からの WT1 蛋白の発現を調べますので、標本ブロックもしくは未染プレパラートを使わせてもらいます。

合致していれば、入院の上、治療に入っていきますので、入院予約をして貰います。